第１講．青年期の特質①

倫理（倫理学）とは

共同体における人と人との関係を律する規範・原理・規則など倫理・道徳を研究する哲学の一部門。

ethics を倫理学と訳した井上哲次郎（1856～1944）による。

青年期

○ライフサイクル論

誕生から死に至る人の一生をライフサイクルという。

その中で，自我の発達の過程に従って，一生をいくつかの節目に区切り，それぞれの段階で達成すべき発達課題が存在し，他者や社会とのかかわりを重視しながら発達課題を達成し成長を続けるという考え方を，ライフサイクル論という。

エリクソン（1902～94：米の精神分析学者）によるライフサイクル論が最もよく知られる。

○エリクソンのライフサイクル論（『幼児期と社会』等）

	発達課題
①乳児期（０～１歳）	基本的信頼の確立
②幼児期（１～６歳）	自律的な意志の確立
③児童期（６～９歳）	自発性・自主性の確立
④学童期（９～12 歳）	勤勉性・生産性の確立
⑤青年期（12～22 歳）	アイデンティティの確立
⑥成人期（22～30 歳）	性的親密さの確立
⑦壮年期（30～65 歳）	世代性の確立
⑧老年期（65 歳～）	自我統合感の確立

それぞれの段階で発達課題の達成に失敗することもあるが，危機的状況を克服しつつ人格的に成熟していく。

問題

ライフサイクルについての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

【03 年・センター本試験】

① ライフサイクルとは，身体の発達の過程に従い，人生を誕生から死に至るいくつかの重要な節目ごとに段階的に分類したものである。

② ライフサイクルにおいて，青年期は自発性の確立という発達課題を抱えた大切な段階である。

③ ライフサイクルにおいて，幼児期は他者に対する信頼感の形成が最も進む基本的な段階である。

④ ライフサイクルとは，それぞれの発達課題における他者や社会とのかかわりを重視しながら，課題を達成し成長を続ける，人の一生である。

問題

発達課題についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。【98 年・センター本試験】

① 人間の発達において青年期は大きな意味をもっているが，青年期の発達課題を達成できるかどうかは生まれつきほぼ決まっている。

② 人間の一生には様々な発達課題があるが，達成すべき発達課題は個人ごとに異なっていて，共通性がない。

③ 人間は発達課題の達成に失敗することも時にはあるが，それぞれの段階での危機的状況を克服しながら人格的に成熟していく。

④ 人間の発達は一生涯続くものであるが，それぞれの時期で達成すべき発達課題の間には関連性がほとんどない。

アイデンティティ（自我同一性）の確立

〇アイデンティティとは

自分は何者であり，何をなすべきかという個人の心の中に保持される概念。エリクソンによる。

〇「青年期」の発生　→　イギリスにおける産業革命期という説

・産業社会の要請による学校教育期間の長期化

・それを可能にする個人の富の増大　（英の社会心理学者・マスグローブによる）

→　来るべき成人期に備え，青年期の間にアイデンティティを確立しておく必要性

「青年期」の表現

〇モラトリアム

・もともとは，戦争や天災などによる恐慌時に，経済の混乱を抑えるために債務の支払い等を猶予することを意味する経済用語。

・エリクソンが，これを心理社会学的な用語として転用した。本来なら，第二次性徴が始まり社会的にもおとなの役割を果たさなければならないが，自分が生涯を通じてうちこめる職業や生きがいを探すなどしてアイデンティティの確立を図る青年期の間は，その役割が猶予されることを指す。

〇第二の誕生

・ルソー（1712～1778：仏の思想家）は，青年期を「第二の誕生」の時期であるととらえた。

具体的には，著書『エミール』の中で「我々はいわば２度生まれる。１度は生存するため，２度目は生きるために。１度は人類の一員として，２度目は性をもった人間として。」と述べている。

〇境界人（周辺人）

・レヴィン（1890～1947：米の心理学者）による

「マージナル・マン」の訳語。「こども集団」と「おとな集団」の境目に位置し，どちらにも所属しきれない状況の人間（＝青年期の人間）を指す。

生きがい

〇神谷美恵子（1914～79：精神医学者）

・『生きがいについて』

岡山県のハンセン病療養所に勤務していた際，患者の多くが将来に希望が持てず生きがいを失っている状態にあったが，わずかながら生きがいを感じる患者を見出した。

その生きがいとは，人生において自分が果たすべき役割があるのだという自覚，言い換えれば「使命感」である。自分の存在が誰か・何かのために必要だと自覚することで張り合いをもって生活できる。

問題

自分らしくありたいと思いつつ孤独感にさいなまれたり，嫌われたくないために対立や困難を避けて馴れ合う関係に嫌気がさしたりすることは，自己のアイデンティティを模索しつつある青年期ゆえの悩みと言える。そのアイデンティティとモラトリアムの関係として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

【97年・センター追試験】

① モラトリアムの期間に，自分が生涯を通じてうちこめる職業や生きがいを探すなどして，アイデンティティの確立が図られる。

② アイデンティティを確立することで，周囲の変化によっても動じなくなり，その後に続く長いモラトリアムに移行できる。

③ 一度モラトリアムの状態に入ると，もはやそこから抜け出すことはできず，アイデンティティの確立は不可能になる。

④ 青年期以降は，およそ５年周期で，アイデンティティが確立された時期とモラトリアムを享受する時期が交互に現れる。

問題

青少年に人生の指針を与えてくれる先人の書物についての記述として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。【06 年・センター本試験】

① エリクソンは，青年期の課題として自我同一性の確立を提唱し，『幼児期と社会』では，その基礎となる乳幼児期の親子関係の重要性を指摘した。

② ルソーは，『エミール』で，「我々は二度生まれる」と表現し，青年を大人と子どもの中間の存在と位置づけ，青年期の若者を境界人と呼んだ。

③ 神谷美恵子は，『生きがいについて』で，自分の存在が誰かのため，何かのために必要だと自覚することで張り合いをもって生活できると述べた。

④ ガンディーは，非暴力・不服従の抵抗運動によって，インドを独立に導いたが，その実践の記録と生命尊重の思想は，『自叙伝』に示されている。